仙台司教区 教区事務所だより

（第　12　号）
昭和52年11月1日

おめでとう
四人の新司祭

去る9月15日（敬老の日）、司教座聖堂元寺小路教会で、3年ぶりに4人の新司祭が仙台教区に誕生した。

当日は晴天に恵まれ、全国各地から集まった司祭は80名を越え、信徒は六百名以上にふくれあがり、聖堂に入りきれなかった。

本教区において、かつて一年に6名の司祭が叙階された例はあるが、今回のように一度に4名の叙階は初めてのことである。

式後、白百合学園幼稚園で祝賀会が催され、久し振りの司祭誕生を祝った。

新司祭の略歴

今野東志男師

昭和17年10月7日宮城県飯野川に生まれる。37年3月11日元寺小路教会にて島田実師より受洗。41年4月東京カトリック神学院入学。51年4月助祭。53年3月神学院卒業予定。

同師は哲学から神学課程に進む中間期に秋葉原の電気街で2年間働かれた。後、秋川神冥窟（坐禅道場）の愛宮老師（イエズス会士）のもとで修業された。

首藤正義師

昭和21年8月25日宮城県米川に生まれる。30年7月10日米川村の集団洗礼でベトレヘム会シュトルム師より受洗。35年大阪小神学校入学。41年東京カトリック神学院入学。51年10月助祭。52年3月神学院卒業。4月から元寺小路教会助任兼教区事務所勤務。

笹気直哉師

昭和22年7月7日仙台市に生まれる。同年元寺小路教会にてドミニコ会ビソネット師より受洗。45年東北学院大卒業。同年4月東京カトリック神学院入学。52年4月助祭。53年3月神学院卒業予定。

同師は多摩ブロックの教会活動・高校生のカト研指導に意欲的に携わり、又、毎週一度病院訪問のアポストラートゥスをしている。

渡辺彰宏師

昭和22年9月1日福島県郡山市に生まれる。28年8月14日郡山教会にてドミニコ会トラハン師より受洗。35年大阪小神学校入学。41年東京カトリック神学院入学。51年10月助祭。52年3月神学院卒業。現在一関教会助任。

同師は中間期／年間塗装業に携わり、職人としての腕前をもつ。のち研修期に川崎のイエズスの小さい兄弟の友愛会で生活を共にした。

旅する教会

「旅から戻ってくると、故郷の煙さえも甘く気持ちのよいものである」と言われます。旅をすることには多くの快びもありますが、また、不安戸惑い・いらだちなどにも事欠きません。それだけに、旅から戻ってくると、ホッとします。

二か月間の海外での一人旅は、旅することの悲喜こもごもを体験しながら、〈旅する教会〉について考えるよい機会となりました。

福者マキシミリアン・コルベ神父が友のために生命を与えたアウシュヴィッツを訪ね、チェスタコーワの聖母の祭壇でミサ聖祭を捧げ、共産政権下で苦悩するポーランドの教会の人々と祈ったときほど〈旅する教会〉、現代におけるイスラエルの民を痛感したことはありませんでした。

伝統と革新との拮抗にあえぐイタリア、フランスの教会、豊かさの中で揺れているスイス・カナダの教会なども、〈旅する教会〉の姿を示しています。日本の教会、仙台教区の旅姿は……？　（佐藤司教）

追悼ミサ講演会

―宮城県カトリック教会開設百年記念事業―

来る11月13日、宮城県カトリック教会開設百年記念事業の一つとして、仙台司教区で働かれた物故者（司教・司祭・修道者・信徒）の追悼・感謝の祭儀が、元寺小路教会で捧げられる。ミサ後、仙台白百合学園で佐藤直助氏による「ジャッケ神父を偲んで」の講演会が催される。

百年記念事業として、昨年以来、元寺小路教会が中心となって次のことが行われてきた。

●映画会　昨年12月18・19の両日、仙台白百合学園で日本二十六聖殉教者の映画「われ世に勝てり」を上映。

●記念物建植　㋑昨年8月、通りに面した教会の塀に「カトリック元寺小路教会開設百年記念―一八七七年（明治十年）―一九七七年（昭和52年）」の横看板を設置　㋺2月27日、仙台広瀬川殉教碑わきに植樹。

●講演会　6月22日、仙台市民会館大ホールで開催。講師・小堀杏奴（随筆家）「偶然と摂理」、土井健郎（東大医学部教授）「甘えと信仰」

●百年のあゆみ記念感謝祭　6月24日、元寺小路教会で開設百年記念事業のクライマックス・記念ミサ（佐藤司教司式）と祝賀をかねたガーデンパーティー。

●さらに今後、①「百年史」の編さんと、②展示会、を計画している。

第三回使徒職研修会

仙塩地区教会代表者合同会議の主催になる使徒職研修会は、今年で第三回目を迎えたが、今年は高田徳明師を講師として、9月5日から、毎月第1・第3月曜（但し、12月は第1、1月は第4月曜日のみ）、3月6日まで11回にわたって、元寺小路教会信徒館を会場として開かれる。

テーマは、「共に神のみ言葉を聞こう」―創世記―。　会費三千円

司教様の日程

（11月1日現在）

9月9日　欧米訪問の旅から帰日
12日　宗教法人責任役員会
14日　会計担当者会議
15日　司祭叙階式司式
22日　三本松ドミニカン訪問
23日　高松司教祝聖式
26日　邦人司祭団月例会
27・28日　日本女子修道会総長・管区長会研修会
28日　スペルマン病院理事会
29日　児童福祉会理事会
10月2日　福島カトリックの集い
6日　東北地区カトリック小・中・高校連盟総会
7日　宮城県宗教法人協議会代表者会議
10日　岩手県カテキスタ研修会
16日　畳屋町教会聖堂修理完成祝別
23日　青森・本町教会堅信
26～28日　仙台・新潟・浦和三教区合同司祭大会
30日　日本男子・女子修道会合同研修会
11月6日　堅信式（角田教会）
8日　聖パウロ女子修道会二十周年（仙台修道院設立）
9日　社会福祉法人理事会
14～18日　邦人司祭黙想会
15～17日　臨時司教会議
21日　司祭評議会
23日　カトリック医師会
25日　スペルマン病院理事会
27日　「カトリック正義と平和仙台協議会」発会式

土井文雄師

（元寺小路教会主任）

表彰さる

去る7月4日、社会を明るくする運動月間に、篤志面接員として土井師は、宮城刑務所長より表彰を受けた。

現在、カトリック教誨師・篤志面接員として仙台教区で働いている司祭は、土井師の他にドミエック・モリソン師（野田町教会主任）、鷹觜達衛師（塩釜教会主任）がいる。

この活動のために多くの人の協力が必要なので、物心両面の援助を、お願いしたい。

ありがとうございました

千葉先生！

15年の長い間、ほとんど家族同様に信徒の中にとけこみ、伝道婦として大船渡教会を支え発展に尽くしてきた聖母カテキスタ会のマリア・ベルナデッタ千葉礼子先生が、このたび、インドネシアに宣教に出かけることになった。

インドネシアの一司教からの強い要請に応えて、聖母カテキスタ会では、二、三人のカテキスタを同地に派遣することになったが、その一人に彼女が選ばれたものである。

今まで仙台司教区に尽くされた献身を心から感謝し、新しい仕事を通して、神様の恵みがインドネシアの多くの人々に及ぶことを祈りたい。

後任は、聖母カテキスタ会から、村口篤子先生が着任された。

岩手カトリック宣教センター『起工式』挙行

総工費一億六千万円の予算で建設計画が進められている岩手カトリック宣教センターの起工式が、去る7月10日11時、盛岡市本町通り二丁目の四ツ家教会敷地内で、ベトレヘム会管区長ツーゲル師の司式により、実際に鍬を入れる鍬入れ式をもって挙行された。

式には、地元、四ツ家教会の信徒達はもとより、県内各教会からの代表者、山添建築設計事務所、大成建設の建設関係者、又、隣接町内会の会長、地区担当員らの参列も見、物質的な宣教センターの完成ばかりでなく、このセンターを生かす岩手の信徒の霊的一致となるセンター建設の完成を祈る熱心な祈りがささげられた。

式後、ささやかな祝杯をもって、12時には盛会裡に閉会した。

※　※　※

建設資金に小さな協力を！

予算一億六千万、口で言うのはやさしいが、その額は容易でない。岩手県の信徒は、建設資金の調達のために、各々一か月分の収入を献金としてささげているときいている。

さきに十勝沖地震の際には、くずれた八戸教会は皆の善意ある寄金で素晴らしく再建された。昨年一月、火災で消失した大湊教会も、全教区民の温かい献金でこれも無事に新築が成った。岩手県のこの意義あるセンター建設に、他県の信徒も小さな献金をもって協力したい。各教会が一日曜日の献金を持ち寄るのも共同体の生きる証しになるのではなかろうか。

善意の献金を惜しまない方々のために、センター金融機関は左記の通りです。

●岩手銀行本店　普〇三一九三八　カトリックセンター

●郵便振替　盛岡二六七二　四ツ家カトリック教会

―（編集部）―

島田実師　スペルマン病院に入院

教区の長老・島田師は、去る9月25日、血圧不調のため、スペルマン病院に入院された。当初、面会謝絶で検査をうけていたが、現在小康を得て食もすすみ、面会謝絶もとかれた。

一日も早く快復されるよう、お祈り下さい。

※※※※※

★カトリック新聞★を
（日本カトリック教会機関紙）
読みましょう

1年購読￥5,000　半年￥2,500（税共）

お申し込み方法

1. 教会で扱っておられるところは担当者へ
2. 葉書で直接本社へ

購読開始日は必ず明記して下さい。

第一回発送のときに、払い込み用紙もお送りします。

〒102 東京都千代田区六番町10
カトリック新聞社

人事往来

✽浜尾司教（東京教区補佐司教）
8月1日、キリスト共同体錬成会指導のため来仙。6日離仙した。

✽沢田和夫師（東京教区司祭）
8月11日、聖ドミニコ女子修道会黙想指導のため来仙 20日離仙。
10月2日、仙台市木の下聖ウルスラ学院を会場として行われた〝仙台教区修道女連盟研修会〟に講師として来仙。同夕帰京された。

✽千葉大樹師（東京教区司祭）
ブラジルで在留邦人の司牧に働いておられるが、8月22日、五年振りで休暇帰国。石巻、築館にそれぞれ一泊。8月24日帰京された。

✽佐久間彪師（東京教区司祭）
8月23日、神学講座の講師として来仙。〝キリスト教は宗教か〟とのテーマのもとに講義。29日離仙。

✽粕谷甲一師（東京教区師祭）
8月24日、同じく神学講座の講師として来仙。テーマは、〝絶対への突破〟。25日離仙。

✽安井光雄師（上智大学教授）
9月3日、結婚講座の講師として来仙。〝教会の結婚〟について講義。翌日帰京。

話題

邦人司祭有志が神学院職員を招待

去る8月17日から4泊5日の日程で、東京カトリック神学院の職員4名を、邦人司祭が招待した。

神学院は邦人司祭の養成機関で、そこに働く職員には、かつて神学生であった司祭方は何かとお世話になっている。招待したのは4名のおばさん方で、そのなかには、20年以上奉職されておられる方もいる。その仕事は全く献身的な、人の目にかくれた報われない奉仕であることは、司祭方がよく知っているところ。

今回、この計画が実現することになったのは、5月、神学校で開かれた神学生養成担当委員会に出席した佐藤守也師（元寺小路教会助任）が、かつてお世話になったおばさん方が今も元気で働いていることを知って、その恩に幾分なりとも報いたいと思ったことがキッカケとなった。

幸い、邦人司祭方も呼びかけに快く応じ、拠出金はおよそ19万円に達した。これを基にして、仙台近郊の景勝地、作並・松島・鳴子と、温泉めぐりを企画し、ささやかな感謝の意を表したものである。

東北ブロック・カトリック児童福祉施設卓球大会

去る8月1日、東北ブロック・カトリック児童福祉施設の第七回卓球大会が、聖ドミニコ学園の体育館を会場に開催。9施設から選手90名が参加、熱戦が繰り広げられた。個人男子の部で小牟田譲郁君（富良野園の子寮）女子の部で池田満枝さん（小百合園）がそれぞれ優勝。団体男子の部ではラ・サールホーム、女子の部では小百合園がそれぞれ司教杯を獲得した。

§オラが教会を語る§

三県信徒の交流

（秋田・青森・岩手）

去る8月20・21の2日間、「オラが教会を語る」集いが、秋田県鹿角市八幡平の後生掛温泉でもたれた。

この集いは、近県の信徒が一堂に会して、土地の言葉で、教区・小教区（教会）を超えて語り合うことを目的とし、80名弱の信徒に3人の司祭が加わり、自由な語り合いがなされた。

参加者全員が発言出来るようにと6つのグループに分かれ、記録係を置いて、それぞれの教会を語り、最後に全体の集まりの中で、グループで語られたことを報告、というかたちで分かち合いがなされた。

各グループとも、教会財政・教会活動・子弟の宗教教育・対内的対外的布教のあり方等が話題となった。

今後、お互いの無事を確かめ合いながら、「語り合いの場」として存続させること、問題解決の場でないことが暗黙のうちに了解され、参加者一同連帯感を感じ、散会した。

キリスト共同体錬成会開かる

この夏（8月1～6日）、仙台茂庭荘において、キリスト共同体錬成会（ベターワールド）が開かれた。各地域から26名が参集。そのうち過半数を信徒が占めた。

約一週間、寝食を共にし、共に祈り、共に研究し、共に遊び、共に歌い、教会の交わりの神秘を深く体験。ここに教会の姿を見、使命と力を体得してそれぞれの教会に戻った。

仙塩地区カトリック教会合同運動会

去る9月18日、ラ・サールホームの運動場において、仙塩地区教会運動会が開催された。

朝から雨の心配もなく、定刻9時30分、ルルドの前で、土井文雄師司式による共同の野外ミサが捧げられ、総勢四百名程の信徒、日曜学校・土曜学校の子供たち、父兄が集い、競技がくりひろげられた。

各教会、それぞれ特色のある応援に力づけられ、皆楽しく一所懸命ガンバッた。その成果は左記の通り。

優勝ー北仙台、二位ー東仙台、三位ー塩釜、四位ー畳屋町、五位ー八木山、六位ー元寺小路、七位ー一本杉。

一日楽しくすごせたことを感謝し仙塩地区教会の一致と親睦のためにも、この催しが続けられることを確認しつつ散会した。

結婚講座

今年も、8月から9月にかけて、仙塩地区カトリック教会と仙台カナの会主催による結婚講座が、元寺小路教会信徒館で開かれた。

講座のテーマと担当講師は以下の通りであった。

★結婚前の幸せなカップル　（深沢　守三師）

★充実した家庭環境と家庭経済　（佐藤　英樹氏）

★教会の結婚　（安井　光雄師）

★夫婦は神の協力者　（村首ステファノ師）

★結婚の医学　（星安　治郎氏）

★若い男女の性格の心理
（ジャン・ルイ・フォーレ師）
★家庭と育児　（宇津木えつ子氏）

仙台教区
修道女連盟研修会

去る10月2日、仙台市木の下聖ウルスラ学園を会場として、仙台教区修道女連盟研修会が開催された。当教区の30の修道院から73名の修道女が参集し、沢田和夫師（東京教区師祭）を迎え、「神の民の歴史と修道生活」のテーマのもとに研修を行った。沢田師は旧約の神の民の歴史と現代の神の民の類似点を指摘し、修道生活の毎日の営みのうちに神の呼びかけに答えるよう示唆された。

参加者は講話をヒントにして、各自の修道生活を深めよう、というのが今回の研修会の意図であった。

当日のミサは、講師の沢田師、オブザーバーとして同席された教区司祭、3人の新司祭による共同司式で、参加者一同は神の民としての自覚のうちに一致し、深い静かな雰囲気に包まれた祈りのひとときであった。

午後からは、講師のもとにとどけられた参加者ひとりびとりのメモを仲介として、講師と受講者との交流をはかりながら、まとめの講話があり、一同は有意義な一日を過ごし、感謝のうちに散会した。

（修道女連盟書記投稿）

ベトナム難民
ラ・サールホームに一時滞在

去る9月末日、ベトナム難民の親子3人が、突然塩釜の町に現われ、密入国の疑いで逮捕された。

カリタスジャパン教区担当の本間重治師（暁星園園長）が保証人となり、警察から彼らを引き取り、一時ラ・サールホームでお世話することになった。

同ホームの温かい積極的な働きにより、3人は難民としての認定がなされ、10日間滞在して、神奈川県藤沢の聖園子供の家に移った。

現在、アメリカとフランスに居るという彼らの家族の居所を、日赤を通じて捜してもらっており、そこからの吉報を待っている。

マンネス・ルドゥック師　帰天

去る10月26日、モントリオールで、ドミニコ会士マンネス・ルドゥック師が帰天された。享年75歳。

同師は昭和5年から昭和13年にかけて、仙台司教区三本木（現・十和田）教会、福島の信夫（松木町の前身）教会の主任を歴任され、後、ドミニコ会本部で、諸外国で働く宣教師のための会計の仕事にたずさわっていた。

心の平安のための実行
○誰にでも親切に
○誰の悪口も言わず
○実行する前によく考えて
○腹の立つ時は口を開かず
○不幸な人を助け
○自分の誤ちを素直に認め
○他人の噂をばらまかず
○他人の幸運をうらやまず
○法の定めを尊重し
○死を迎える心構えをする

〝賛美と感謝の集い〟

―第8回福島県カトリックの集い―

毎年9月にもたれていた福島県カトリックの集いが、諸行事の関係で今年は10月2日、郡山で開かれた。

回を重ねて8回になるが、開催地の実行委員会が企画・運営にあたり、地域性や適時性を考え、あるいは時代を越えたキリスト者としての問題をテーマに、話し合いがなされて来た。

今年の集いは、〝賛美と感謝の集い〟というテーマのもとに、討議の場をもたず、「聖歌とわかちあい」を軸に、ミサを頂点としたものである。

職業、世代、感じ方、考え方の異なる多様な人間が集うわけだが、〝キリストにおいてひとつ〟という実感をもち、聖歌を歌い、すばらしい宗教体験をわかちあうことによってお互いが高めあい、清めあうという相乗作用を期待した。

事前に、郡山の実行委員がギターをもって県下の教会訪問をし、フォーク聖歌をうたいあい、〝集い〟の趣旨を伝え歩いた。今までにみられない青年姉妹会が中心となっての活動であったが、壮年の方々からも、聖歌をもう一度味わいなおしたいとか、賛美のすべをもう一度考えなおせる機会をもった、という反応もあった。

集いの当日は、先ず主催者として県の連絡協議会長のあいさつのあと実行委員長のよびかけがあり、すぐに集いの内容に入った。佐藤司教様を迎え、県下各教会の代表150名が心をひとつにしての集いであった。

よびかけは、集いの趣旨と意義、そして人間がうたをうたうことの意味を考えながら賛美の心を訴えた。その後、古い世代の人もよく知っているカトリック聖歌集から、集いの中におられる主に、〝みたまよきたりて〟を歌い、フォーク聖歌もおりまぜプログラムが進み、うたいあうことによってみんなの参加意識も高まった。

その高まりの中で、各世代の代表がすばらしい体験発表をし、午後からは小グループのわかちあいをもち、ミサにのぞんだ。各グループの祈りが捧げられ、ひとりひとりの心を結束して神を仰ぎみたミサであった。

最後に、この成果を各教会にもちかえり、大きく育てようというあいさつのあと、みんなで歌って散会した。

今回の集いで、印象深くよかったことは、集いを通して太く強く流れていた祈りの雰囲気であった。それは、激動する現代の中でややもすると忘れられがちであるが、実は、何と力強く、人を支え、力づけるものかと、改めて感じさせられた次第。

（実行委員報告参考）

【編集後記】

第12号を、やっと皆様のお手許に届けることが出来ました。感謝。

次号からは長い間を置かずに発行できる様万全を期したい所存。皆様からの具体的な協力を願いつつ……

仙台司教区事務所だより第12号
昭和五十二年十一月一日発行
発行所　仙台司教区事務所
〒980 仙台市本町一丁目2番12号
TEL 0222 22 7371